

# 将棋部

現部長 石本 仰  
前部長 石本 仰  
顧問 平泉 信吉先生

今を去ること八十有餘歳、大正十二年九月、未曾有の震災が帝都を襲つた。死者十萬、百萬の難民が瓦礫の街に溢れた。曠日久しきに彌る中、彼らの心待ちにしたのは、避難所に届く新聞將棋であつたといふ。到る處で浴衣姿のおやち達が、縁臺將棋に打興してゐた時代の話である。

爾後、帝都は再び灰燼に歸するも復興、開發が進み、摩天樓の櫛比するに至り、縁臺は次第に姿を消してゆく。その影響は地方にも及んだ。

縁臺衰頹の歴史は將棋衰頹の歴史でもあつたか、平成廿一年、旭川東高校將棋部の部室は森閑としてゐる。唯一の部員は卒業せんとするに後輩は無く、荒廢した部室が在る許りである。私とて荏苒としてゐたに非ず、一昨年は面倒で行かなかつた新入生勧誘に昨年は重い腰を掲げて行き、大いに喋つたが誰も來ぬ。將棋に堪能であり、家臣に奨励したといふ織田信長公も、長歎息を禁じ得ぬだらう。

將棋の歴史は古く起原は定かでないが、現在の形に成つたのは信長公の時代である。秀吉、家康も、武人たる者、之を能くせよと云ひ、近代に至る迄庶民の數少い娯樂の一つであつた將棋が、北海道第二の都市で廢れようとしてゐる。

四方に翠黛を望む旭川、將棋の衰頹は私の望まぬ處である。

